

(追記) 熊本地震支援その後

皆さまに、J C M A ホームページ掲載の「櫛戸健次郎氏報告 N O 5」以降の現状をお知らせいたします。

すでに各部長、常任委員等役員には情報をお知らせしておりますが、5月14日に開催されました常任委員会で以下の事が協議され支援の方向が示されましたが、熊本現場からの要請で現在支援は見送りの形となっております。

J C M A ホームページ上でボランティアを募集することもペンディングのままです。

常任委員会議事録（一部割愛）（医福誌に掲載予定）

1) 熊本地震緊急支援 現状報告と協議

①櫛戸健次郎氏が Y M C A 同盟の要請を受け 4 月 23 日～28 日まで現地入り、今後の J C M A 支援方向について提案あり。

②J C M A 全国委員仁科氏がシェアの要請を受けて 4 月 29 日～5 月 1 日に現地入り、熊本 Y M C A が指定管理者である益城町体育館に保健室立ち上げを提案。5 月 15 日より活動開始予定。外部団体（シェア、J C M A、賛育会、Y C H）と現地熊本との協力調整の役割を日本 Y M C A 同盟事務局長の大江浩氏等がされ情報の交換をしている。

②の案件について J C M A としての支援の可能性を検討協議した結果、益城町体育館保健室への J C M A として看護師、保健師のボランティア募集を HP に掲載予定。

・現地の医療機関が診療を再開しており、ニーズとしては、避難所での保健予防活動やコーディネーターの役割が求められている。

・南阿蘇村等の被災地については、情報が少なく、余震による問題もあり、現段階での活動は困難と思われる。

(後日追記)

益城町体育館（熊本 Y M C A が管理）での「保健室」活動に対し、N P O 法人シェアを中心として、J C M A も、Y C H・賛育会などと並んで協力していくむね、議決をいたしました。急激な避難者の増加への対応で、保健室活動にまで手が回らぬとの事で、この計画の一時凍結を、常任委員会後、先方から要請されました。

J C M A の熊本・益城町体育館「保健室」支援活動、しばらく見送ります。

今後の事態の動きを注視しつつ、わたくしたちの支援活動の方向性も見定めてまいりたいと考えております。（常任委員会議長 西脇洸一）（5 月 19 日）

以上が 5 月 29 日現在の状況です。

熊本の被災地は、震源地であった益城町、阿蘇近郊を中心に厳しい現状が続いております。今後は心のケアの問題など、長期にわたる支援が必要と思われます。ボランティア募集等呼びかけがありました折に皆さまのご協力をよろしくお願い致します。（地震連絡係 原久子）